

Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.18 英語担当 川瀬さん

◆なぜ医療通訳者になった？

過去フリーランス通訳者として活動し、様々な国や業界の方々との出会いを通じて、たくさんの方の事を学んできました。一方で毎回仕事のテーマが違い、ある時は酒蔵の商談、またある時は燃料電池の技術提携…等々範囲が多岐にわたり、もう少しじっくりと一つの分野の仕事に取り組みたいと感じていました。加えてこのコロナ禍で人との触れ合いも減り、通訳者としての働き甲斐を改めて考えることもありました。そんな中ご縁を頂き、医療通訳の世界に飛び込むこととなりました。好きな英語を通して社会と関わり、自分が成長することがお客様また社会への貢献に繋がる素晴らしい仕事だと感じています。



◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

先日保健所の職員の方から「ありがとう」「助かりました」の言葉を頂いた時、こちらの方がお礼を言いたい気持ちが溢れてきました。日々大変な思いで働いておられる職員の方に、自分が少しでもお力になれば、こんなにうれしいことはないと思いました。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

医学の知識を身につけるため、テキストやインターネットで学んでいます。月に一度の勉強会は医師の講義に加え、ロールプレイングで実践力をつける素晴らしい機会です。また、先日診察に来られたお子様が採血を怖がって大泣きし、お母様も困ってしまわれました。このような状況にいたたまれなくなりましたが、感情に流されることなく、患者様に寄り添うことが出来ればと思いました。医療通訳者として何よりも大切な「正確さ・冷静さ」を優先しつつ、緊急した現場でも患者様、ご家族が安心して医療者の皆さまと向き合うお手伝いができればと考えています。

医師紹介
(英語アドバイザー)

私はドイツ・ハンブルクで生まれ、2歳時から兵庫県西宮市で過ごしました。日本で初期研修と救命救急の研修を少ししたあと、小児救急医になるために渡米しました。今年で医学部卒業後13年、渡米10年になります。2年前からスタッフ医師として、米国アリゾナ州フェニックスにある市中病院の小児ERで働いています。趣味はキックボクシングと日本国内の方言を含めた他言語を学ぶことが大好きです。苦手なことは暇な時間を何もせず楽しむことです。実はそれがMedi-Wayの顧問医師、連利博先生との出逢いに繋がりました。2人目の出産後、日本に一時帰国した際に暇を持って余して、母校・関西医科大学の同窓会誌に寄稿し、そこで今取り組んでいる日本語英語の医療通訳の訓練と、アリゾナ州法定通訳の資格について触れたところ、大学の先輩である連先生が見つけてくださいました。通訳者の皆様との出会いにも感謝しております。

米国アリゾナ州フェニックス・
バリーワイズヘルスメディカルセンター
小児救急スタッフ医師 岩野仁香



今月のピックアップ

「お正月の過ごし方 Vol.2 - 旧正月」

旧正月を祝う中国やベトナムではどんなお正月を過ごすのでしょうか？ちなみに旧暦(「農暦」「陰暦」とも言います)のお正月は、月の満ち欠けで決まるので毎年日付けが異なります。2022年は2月1日でした。

中国とベトナムの様子はとてもよく似ています。まず大型連休/公式には1週間程度ですが、1年で最大の行事であるため、出稼ぎの地方出身者などは2週間から1ヶ月休暇を取って帰省します。中国では「春節(旧正月)の移動」という意味で「春運」と呼ばれますが、毎年何億人規模の大移動/トピックスになります。

次に、お正月に欠かせない食べ物ですが、中国では「餃子」です。「餃」の字が「(年と年が)交わる」の意味だといわれ、特に小麦粉文化の北方では旧暦の大みそかに家族そろって餃子を作ります。ベトナムでは「バインチュン」(ラーゼンの葉っぱで餅米・緑豆・豚肉を包んで10時間以上茹でます)が定番、大みそかの夜に先祖を迎えるため用意するご馳走だそうです。

そして、中国のお正月に欠かせないのが爆竹。派手な「パンパンパン」という破裂音が邪気を払うといわれますが、近年は都市部でやけど被害者続出+昨今の空気汚染問題(街中が紫色の霞に覆われます)で禁止する所が増えていきます。一方、街頭のデコレーションはとても賑やかで、その年の干支の大きな張り子がビルの玄関を飾ったりします。ベトナムでも縁起のいい赤や黄色を使った旗やランタンが飾られ、街全体が華やかな雰囲気になります。世界中でこの1年が穏やかであることを祈らずにはいられませんね。

